

2023年2月24日 第3421回例会

於： 横須賀商工会議所

- <点鐘・開会> 12:30 長尾 副会長
<斉唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<新会員入会式> ・長島誠人会員 ・萩原英恵会員



- <会長報告> *ガバナー事務所より
・2023-2024年度地区役員・委員会委員(正副委員長含む)ご就任委嘱の件について
地区クラブ管理運営委員会副委員長 小山 陽生 会員
地区ローターアクト委員会副委員長 齋藤 秀人 会員

- <委員長報告> *松岡会員より新会員の集い報告
<幹事報告> *例会出欠回答の迅速化について
<出席報告> *出席委員会 加賀本委員より2月24日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
116名	101名	72名(5名)	29名	6名	76.47%

<ニコニコ報告>

- ・椿、梁井、松本 働、比護、加藤 働、岡田 健、大野 働、大石、長谷川、石田、杉浦、福西、児玉、江口、澤田、南、勝間、田村、小沢、新倉 働、野坂、Enora、加賀本、上林、木村、鷺尾、田邊、小山 働、江沢、高橋、岡田 働、植田、飯塚、根岸、徳永、中村 働、角井 各会員
山田哲也會員、松岡美里会員、本日の新会員卓話大変楽しみにしています。宜しくお願いします。
- ・松岡 会員 本日新会員卓話をやらさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
- ・三 役 長島会員、萩原会員ご入会おめでとうございます。会員との親睦を深めロータリーライフを楽しみましょう。
- ・比護、田中、八巻、南、澤田、新倉 働、勝間、福西、渡邊、小林(-)、猿丸、鈴木 働、藤村、高橋、徳永、角井 各会員
(株) JTB 横須賀支店支店長 長島誠人様、共創未来横須賀薬局薬局長 萩原英恵様、ご入会おめでとうございます。ようこそ横須賀 RC へ。共にロータリーライフを楽しみましょう。
- ・長島 会員 本日より入会します長島と申します。ロータリークラブの理念、目的を理解、体現できるよう活動してまいります。何卒よろしくお願ひ致します。
- ・萩原 会員 本日、入会させていただきます萩原英恵です。よろしくお願ひいたします。

- ・澤田、高橋、笠木、兼城 各会員 長尾副会長、先週に引き続き本日も会長代行ありがとうございます。本日も宜しくお願いします。
- ・長尾 会員 本日も前田会長の代理を務めさせていただきます。お聞き苦しい所が多々あるかと思いますがご理解ご協力の程、お願いします

<新会員卓話 1>

山田 哲也 会員

本日は卓話の機会をいただきありがとうございます。昭和40年5月に、徳島県鳴門市に生まれました。実家は瀬戸内海が目の前に広がる風光明媚なところです。今日はみなさんあまり馴染みない徳島県のことをお話ししようと思います。しばしお付き合いください。

徳島で有名なのは、阿波踊り、すだち、鳴門ワカメでしょうか。まず阿波踊りです。8月県内の市町村で開催されます。中でも、“徳島市阿波踊り”が有名で、100万人が来場すると言われていました。昨年8月12～15日の4日間開催されました。由来は、天正年間、阿波国主・蜂須賀家正が、“阿波城の完成に際し、お祝いで好きに踊ってよい”と御触れを出した説、“蜂須賀家正の締め付けが強すぎて、鬱憤がたまった民をなだめるために、踊ることで発散させた方がよい”とした説。大阪との商いで、財をなした藍商人が花柳界で型破りな豪遊をし、当時芸者の中で流行していたお座敷芸を今の形まで洗練してきたなど、諸説ありますが、真偽は定かではありません。ただ当時、芸達者イコール阿波踊りが上手な人と言われていたようです。徳島は1年のうち8月の阿波踊り期間だけ、異様に盛り上がります。ちょうど夏の甲子園大会と重なることもあって、大いに盛り上がっていました。最近は強豪校が少なくなり、高校野球はあまり盛り上がりませんが・・・徳島県には、“連”と呼ばれるグループが約1,000、踊り子は約10万人とも言われています。徳島県の人口が約73万人ですので、どれだけ多くの県民が阿波踊りをやっているかが分かります。

私が徳島にいたころは、春先から練習開始、8月本番を迎える感じでしたが、今では有名連は1年中練習をし、全国各地を転々としているようです。すだちは、ミカン科の香酸柑橘類で、主に食酢として使われ、「酢の橘(すのたちばな)」と呼ばれていましたが、現在はすだちとなりました。徳島県が全国シェア98%です。最後に鳴門ワカメです。鳴門海峡は内海と外海の海流が激しくぶつかり合っています。沿岸の浅い部分はゆったりした流れ、中央の深い部分は速い流れ、そのために生じる渦にもまれていいワカメが育つと言われています。激しい潮流の鳴門海峡で育った鳴門鯛はブランドです。美味しいですよ。

次に、徳島の企業と言えば、大塚製薬（現大塚ホールディングス）と日亜化学工業でしょうか？大塚製薬もずっと非上場だったのですが、2010年大塚ホールディングス株が東証1部に上場されました。1921年（大正10年）、塩田残渣(にがり)から炭酸マグネシウムを作る化学原料メーカーとして設立されました。その後、点滴注射液を作る医薬品メーカーへ変貌を遂げ、食料品飲料メーカーとなり、現在はトータルヘルスケア企業となりました。製品はオロナイン軟膏、ボンカレー、オロナミンC、ゴキブリホイホイ、ポカリスエット（点滴注射液の技術を応用）、カロリーメイト、ジャワティ、SOY JOY。聞いた話です。社の方針として、多品種製造、多品種販売を良しとしておりません。同業飲料メーカーに聞いたことがあるのですが、大塚は少し違ふと。飲料メーカーはコンビニやスーパー、自動販売機のスペースを確保するために、新商品を次から次へと開発・販売する必要があると。たまにヒット商品が出ればいいという方針。大塚は一つの商品に徹底的に拘ります。ヒット商品になるまで売り続ける。売れなくても、すぐに販売中止とすることはありません。売れても売れなくても、しばらく売り続ける。自社製品に自信あるからできることなのでしょう。以前は、TVCMも広告代理店任せにせず、自社制作していたと聞いたことがあります。



続いて、県民性について少し紹介させていただきます。大学教授に言われたことです。徳島県は藍染め、林業が盛んで、大阪との商いも盛んであったため、大阪商人気質である。徳島県民は“へらこい”（ずるい、抜け目ない）と言われる。要領がよいとも言われます。私はずるい、抜け目ないとは思いませんが、要領はいいかもしれません。教授曰く、四国4県の県民性を表す言葉で、“お金があれば、愛媛県民は買い物をする。香川県民は貯蓄をする。高知県民は酒代・遊興費に使う。徳島県民は元手に一儲け企てるらしいです。”人を簡単に信用しない疑り深い性格“堅実でまじめ”だそうです。大塚製菓の社風（一つの商品を徹底的に売る、販売状況が芳しくなくてもしばらく売り続ける）は徳島県人の性格を表していると言われています。香川県はうどん県と言われる。徳島県も同じようなもので、うどんをおかずに、ご飯を食べます。毎日うどん食べますからね。よく飽きないものです。

徳島県出身の有名人です。横浜に出てきて約40年になるので最近の人は分かりません。政治家・三木武夫、後藤田正晴、元プロ野球選手・板東英二、ジャイアンツ水野、中日ドラゴンズ川上、千葉ロッテ里崎。プロゴルファー尾崎3兄弟、女子は鈴木愛、堀琴音。アーティストでは米津玄師（よねづけんし）、アンジェラアキ。高校まで徳島県で過ごし、大学入学と同時に上京、約40年経ちました。

横浜には地縁血縁もなく、縁もゆかりもまったくない中で、横浜銀行に入社しました。なぜ？とよく訊かれますが、理由は銀行のイメージが良かったから、就職前に合った方々の人柄が魅力的だったからです。入社1年目でも一人の人間としっかり向き合ってくれそうな会社だと感じたからです。横浜銀行は地元では長男長女銀行と呼ばれているそうです。銀行界の中ではおっとりした社風で通っています。須藤支店長今日はいないですが、どうですか？浜銀？入社は昭和63年です。まさに“半沢直樹”世代です。浜銀通算33年勤めました。最後は川崎支店で勤め、今は縁あって関東化成工業でお世話になっています。転勤を9回経験しましたが、横須賀市内での勤務は初めてで土地勘が全くありません。

関東化成工業はトヨタ自動車の下請けです。トヨタの長い歴史の中で、リーマンショック、東日本大震災で売れなくなった時はあったようですが、売れるのに作れないは初めてだそうです。トヨタも一部出資して、ラピダス（半導体製造会社）を作ります。聞いた話ですが、小型車30個、普通車50～70個、高級車150個以上の半導体が使われているそうです。半導体不足はかなり深刻です。自動車業界は大変革期にあります。私は駆動系だと思いますが、電気製品化しているという人もいます。車は高級家電だと。先日、ソニーホンダモビリティが発表した“アフィーラ”って、すごいです。ご覧になられましたか？コンセプトが超高級スマホです。搭載される半導体が、高級スマホに搭載される半導体だそうです。車好きには、ちょっと寂しい気もします。

人となりをより知ってほしいので、個人情報も公開します。住まいは横浜市磯子区、JR京浜東北線新杉田駅です。血液型O型、牡牛座です。周りからは典型的なO型人間と言われる。妻と二人暮らし、子供はおりません。趣味は（なかなかうまくならない）ゴルフです。是非、ご一緒させてください。お酒は乾杯の一杯で2時間持ちます。めちゃくちゃ燃費いいです。お茶で十分楽しくなります。宴席は大好きなので、コロナが落ち着いたら遠慮なく誘ってください。

歴史と伝統ある横須賀ロータリークラブの一員になれて、大変うれしく思います。これからも、よろしくお願ひします。

<新会員卓話 2>

松岡美里 会員

新会員の松岡美里です。入会してまだ3カ月しか経っておりませんが、さっそく新会員卓話で話す機会を下さり、誠にありがとうございます。

まず、現在何をしているのかをお話ししたいと思います。現在、帝京大学外国語学部外国語学科（英語コース）の准教授として勤めていますが、2018（平成30）年4月に講師として赴任し、2021（令和3）年から現職です。本学では助教から准教授までの教員の場合、週に4回出講しなければならず、1日「研究日」という日がありますが、私の場合、金曜日がその日に当たります。例会も金曜日であるため、研究会などがないときは対面で出席できます。その他、本学の高等教育開発センターのSoTLプログラムに2020（令和2）年から携わり、現在シニアフェローとして勤めています。筑波大学大学院のこのコースはいわゆるビジネススクールですが、夏の5日間分の集中講義のみ担当しております。また、今年の秋には2カ月、

研究日を利用して、毎週金曜日、大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（APU）で教えることになりました。そのため、2カ月ほど対面で例会に出席できませんが、別府の温泉を堪能する予定です。では、自分の生い立ちから今に至るまでのお話をしたいと思います。

私は1986（昭和61）年9月24日にアメリカで生まれ、「五黄の寅」でございますが、1996（平成8）年までニュージャージー州に在住し、のびのびと現地校に行き、好きな習い事をしながら育ちました。また、「ブラウニー」というガールスカウトにも入り、奉仕活動にも従事していました。ちなみにこちらの写真で私の隣にいるのがカルメンという仲の良かったヒスパニックの友人です。その他にも、ユダヤ系アメリカ人、イタリア系など、人種のサラダボウルのような環境にいたため、多様な文化を体験することができました。私の経歴からは、あまり横須賀市とゆかりがないのではと思われるかもしれませんが、母、そして中村会員は横須賀育ちでありますし、日本に数回帰国した際には、必ず横須賀を訪れました。

母方の祖父は横須賀の米軍基地近くで「国際英文社」という事務所を立ち上げ、翻訳業務に携わっていました。このような本を執筆しつつ、翻訳業務に従事し、帰国した際、よく兄と事務所に行きました。現在のコースカベイサイドストアーズは当時ダイエーでしたが、そこにあったドトールでよく好きなホットドッグを食べていたことを覚えています。また、母は子供を育てながら、アメリカのコロンビア大学院で応用言語学を専攻し、のちに大学で教えることになりましたが、幼少時代には母が日本語を教えるところを兄とともに見学したことがあり、当時生き生きと教室を回りながら教えている母の姿をみて、学校で教える仕事も楽しそうだと感じました。その後、日本に初めて住むことになり、自然に日本での生活に慣れることができましたが、英語の語彙力も落ち、日本での学校教育に不満を抱くようになってたりもし、大学受験の頃から将来どうしたいのかを真剣に考え始めるようになりました。具体的に、どういう大学に行き、どういう職業に就きたいのかを考えるようになり、色々調べたところ、国連のような国際的な仕事をしたいと強く思うようになりました。

それはここにいる「マダム・オガタ」と知られる緒方貞子さんの影響もとても大きいと感じます。この卓話を準備する際、マダム・オガタについて改めて調べたところ、元ロータリー国際親善奨学生であり、ロータリー学友世界奉仕賞を受賞していることを知りました。彼女の名前の研究所もあるくらい、誰もが憧れるような人物であり、私もその一人であります。こちらにある「熱い心と冷たい頭」は元々イギリスの経済学者の cool head, warm heart という言葉から来ているのですが、私は緒方さんの言うこの言葉を意識して、勉学などに励みました。10代後半、20代ぐらゐまで「背伸び」をするようなかたちでがむしやらにがんばるようになり、英語のみで授業が行われる上智大学の現在国際教養学部に入りました。留学は強制ではなかったのですが、緒方さんもいたカリフォルニア大学バークレー校（UCバークレー）に行きたく、応募審査も成績も考慮されるため、とても大変でしたが、運よくUCバークレーに1年留学に行きました。

憧れのUCバークレーに留学し、平和と紛争学などを履修し、マダム・オガタもいた I-House という寮で生活しました。I-House にはコーヒーアワーという文化交流のようなイベントもあり、楽しく過ごしました。帰国後は、大学院に進学するのですが、国際機関で勤めるか、あるいは大学などで教えるかを考えるようになります。その中、運もあると思うのですが、憧れだった国連でインターンをするチャンスをいただきました。

こちらが国連インターン生の集合写真であり、ご覧の通り、多くのインターンの一人です。このときのインターンでは日本人は私一人でした。そのほかの国も確かに私と同様に数名のところもあれば、フランスや中国、スペインなどのオフィシャルな言語をもつ出身のインターンは10名に近い規模でしたので、一言で言うと国力の差を感じました。また、もちろんマダム・オガタの国連などにおける活動に尊敬はしますが、この頃「憧れていること」と「やりたい・できること」に食い違いを感じるようになります。インターンで



は政治局の北東アジアチームでリサーチ・アシスタントをやったわけですが、対象国は日本、中国、ロシア、韓国、北朝鮮、モンゴルであり、もちろん国連の力を発揮できない場面も多々目の当たりにしました。この経験で、例えば学部時代、カンボジア人の教授が「国連が無力だ」と批判していたのを実感しました。しかし、この経験を全く後悔しておらず、むしろ自分自身にできることややりたいことがインターンの経験で明らかになりました。簡単な道のりではなかったのですが、研究職に進みたいと思うようになりました。

その後、上智大学の大学院で修士号を取得してから、イギリスにて博士課程に進学することになります。研究テーマは日米関係、覇権理論とソフト・パワーでしたが、なぜイギリスにしたのかと聞いてみると、自分なりにアメリカを十分に理解していると思い、別の国に行きたいと思ったからです。また、イギリスは国際関係の理論に特化している傾向があり、政策分析を重視するアメリカではなく、イギリスの方がやりたい研究ができると感じたためです。2014(平成26)年には博士論文を仕上げ、2015(平成27)年に博士号を授与されたわけですが、就職活動をしていたため、2016(平成28)年までビザを延ばしました。ただ、就職活動の競争率も昔より大分上がり、パートタイムでは大学・大学院で教える機会をいただけても、フルタイムでの就職は難しかったです。でも、イギリスに行って良かったことは、ヨーロッパ、中東やアフリカからの留学生が多いため、彼らの持つ歴史観や国際情勢のさまざまな見方を知ることができ、アメリカでは気づけなかった視点を得たことです。帰国後、1、2年ほど、日本の大学で英語での国際関係論などを教える授業を非常勤でやらせていただき、冒頭でお話ししました通り、現在外国語学部外国語学科(英語コース)で教員をしています。

ゼミではグローバル・スタディーズというテーマで批判的思考力を鍛えるような内容にしています。また、研究活動についてはコロナ感染症のために海外での学会発表がオンラインになったりしましたが、昨年対面が復活し、ギリシャで学会発表をしました。来月はブラジルとカナダでセミナー登壇や学会発表予定です。論文執筆もしていかなければならないところですが、一つの夢だった母との共同執筆も実現できました。英語ですが、無料でご覧になれますので、是非このQRコードで見ただけだと幸いです。フルタイムで大学教員として勤めてから5年経ち、大学業務にも慣れてきたところでもあります。これまで背伸びをするかたちで日々邁進してきて、学術的な世界でも引き続き研究活動などを続けて行こうと考えておりますが、今後長期的に社会とどう関わっていくかと考えた際、まだまだ見えている世界が狭いように感じ、視野を広げるために横須賀ロータリークラブに入会させていただきました。現状に慣れると、新しいことに挑戦したくなる性分でございます。ロータリーにつきましても、中村会員はもちろんです、実を言いますと亡くなりましたが叔父は藤沢のロータリークラブの会長をしていました。

また、ここにいるイギリスにいたときのイタリア人の同級生はロータリー奨学生として、タンザニアでプロジェクトに関わっていたこともあり、ロータリーの存在を感じていました。入会してから4カ月経とうとしていますが、これからここにいらっしゃる会員の皆さまとともにロータリーの活動に関わらせていただきたいと存じます。今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

<閉会・点鐘> 13:30 長尾 副会長

週報担当 児玉 信藏